

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない自治体における中核拠点病院の機能評価と体制整備のための研究

～オール四国の体制の整備～

課題番号：21HB1007

【分担研究4】地域で実践的なポケット版小冊子の作製

研究分担者：高田 清式（愛媛大学医学部附属病院 教授）

研究要旨：四国のようにブロック拠点病院が近辺になく、県内の個々のエイズ拠点病院が十分に機能していない、いわゆる地方の比較的医療過疎である地区に、本研究によって HIV 診療の充実や均てん化が促されていくことが期待されている。この背景のもと、療養病院および福祉施設に簡便に HIV に関するマニュアルが手元にあることが知識の確認や啓蒙につながると考え、ポケット版の介護マニュアルの発行を考えた。令和5年度の研究成果として、地域で HIV 診療に関する実践的なポケット版小冊子を作製（最新の愛媛や四国の現況や針刺し事故時の感染予防内服薬を配備している病院名など具体的に刷り入れた）し四国の主な HIV 診療施設および介護および福祉施設に配布を行った。これらの施設ではハンディで判りやすいと概ね好評であった。

研究分担者

今滝修・香川大学医学部・講師
武内世生・高知大学医学部・准教授
尾崎修治・徳島県立中央病院・医療局長
末盛浩一郎・愛媛大学医学部・准教授
井門敬子・南松山病院・薬剤部長
若松綾・愛媛大学医学部附属病院・看護師
中村美保・高知大学医学部附属病院・看護師
小野恵子・愛媛大学医学部附属病院・総合
診療サポートセンター・社会福祉士

A. 研究目的

四国地区という、ブロック拠点病院が近辺にない愛媛県において当院は、エイズ地域

中核拠点病院に指定され、累計 220 名以上の患者を治療している。四国地区は近年 HIV・エイズ患者の増加が著しく、当県もエイズ拠点病院に指定されている病院が 15 施設もあるものの殆どが診療未経験であり、大半の患者が当院に受診している現状で、四国の他県も同じ様な実情である。かつ四国地区は、高齢化率が各県 32.2～35.9%であり、都市に比べ高齢者の HIV・エイズ患者が多く、HIV 感染および合併症が進行し日常生活に差し障りが著しく自宅以外での長期療養が必要な例も少なくない。急性期病院の当院も、自宅で生活困難な長期療養患者の対応については、他の施設への紹介・受け入れを個々の事例におい

て行いつつあるが HIV に対する不安や感染リスクも問題になり、受け入れに苦慮している実情である。さらに治療以外にも家族対応および就業面など社会的な対応も迫られることも多い。

この実情にて愛媛県各地域の各病院・施設と連携を行うように努めているものの、対応すべき HIV 感染症患者は多くかつ経済・人材面も満たされておらず、連携しうる病院・施設への啓蒙や人材の育成も患者数の増加からは極めて不十分な状況である。

この背景のもと、療養病院および福祉施設に簡便に HIV に関するマニュアルが手元にあることが知識の確認や啓蒙につながると考え、ポケット版の介護マニュアルの発行を考えた。

B. 研究方法

介護時の HIV 感染予防対策なども折り込んだ、愛媛および四国での実用的な（最新の愛媛や四国の現況や針刺し事故時の感染予防内服薬を配備している病院名等具体的に刷り入れた）HIV に関するポケット版マニュアル（18 x 10 c m 大程度の予定）を作製し県内および四国の主だった HIV 診療施設に配布した。また、各出張講義や在宅看護の実地研修の参加者にこの介護用のポケット版マニュアルを配布し感想や意見を聴取し次回の介護用の小冊子の改訂版にも反映させる。

このポケット冊子に関しては、事前評価委員からも面白いという意見・評価もいただいております。今後現場での意見も聞きつつさらに改良した冊子を将来は作製したい。さらに HIV 感染者の受け入れが円滑に進むような、受け入れ Q&A も作製を検討す

る。

（倫理面への配慮）

患者および関係者に対する人権の保護に配慮して行い、調査に協力できない場合も不利益にならないようにする。

C. 研究結果

介護時の HIV 感染予防対策なども折り込んだ、愛媛および四国での実用的な（最新の愛媛や四国の現況や針刺し事故時の感染予防内服薬を配備している病院名など具体的に刷り入れた）HIV に関するポケット冊子（携帯できるように 18 x 10cm 大で三つ折り）を作製し県内および四国の主な HIV 診療施設に配布した（安心して介護ができるように、針刺し事故後の感染確率や高齢化が進み全国的に 50 歳以上の HIV 感染者が 35% を占めているグラフも紹介し、高齢化の対応が四国地方での必要性を強調した）（図 1～3）。

The collage consists of six pages from the HIV/AIDS care manual. The pages contain text, charts, and illustrations. Key elements include:

- Page 1 (Top Left):** HIV/AIDS patient statistics. It lists the 2022 world population (3900 million), HIV prevalence (3310 million), and new HIV infections (130 million). It also lists the number of people living with HIV in Japan (24,140) and the number of people living with HIV in the Shikoku region (1,300).
- Page 2 (Top Right):** Guidelines for handling exposed cases. It lists steps such as hand hygiene, wearing gloves, and using a face mask. It also includes a table of disinfectants and their usage.
- Page 3 (Middle Left):** HIV/AIDS patient statistics. It lists the 2022 world population (3900 million), HIV prevalence (3310 million), and new HIV infections (130 million). It also lists the number of people living with HIV in Japan (24,140) and the number of people living with HIV in the Shikoku region (1,300).
- Page 4 (Middle Right):** A line graph showing the decline of HIV prevalence from 1980 to 2020. The graph shows a sharp decline in prevalence from 1980 to 1990, followed by a more gradual decline until 2020.
- Page 5 (Bottom Left):** Guidelines for handling exposed cases. It lists steps such as hand hygiene, wearing gloves, and using a face mask. It also includes a table of disinfectants and their usage.
- Page 6 (Bottom Right):** Disinfection usage instructions. It lists steps such as wearing gloves, using a face mask, and using a disinfectant. It also includes a table of disinfectants and their usage.

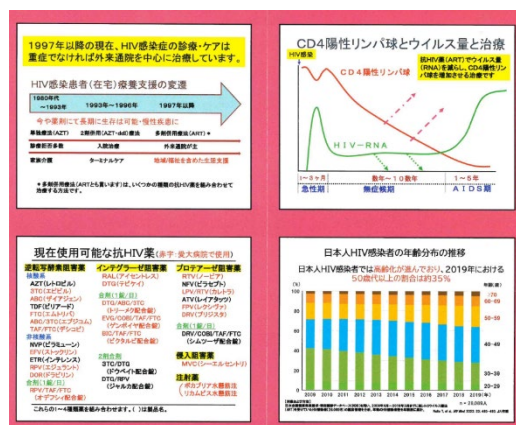


図 1～3HIV 介護マニュアルポケット版

D. 考察

令和 5 年度の研究成果として、地域で HIV 診療に関する実践的なポケット版小冊子を作製（最新の愛媛や四国の現況や針刺し事故時の感染予防内服薬を配備している病院名など具体的に刷り入れた）し四国の主な HIV 診療施設および介護および福祉施設に配布を行った。これらの施設ではハズレで判りやすいと概ね好評であり、今回の厚労省からの研究課題の事後評価でも高評価をいただいた。

地方において、充足した生活が 1 人では送れない HIV 感染患者に対し、拠点病院および介護福祉間の連携が円滑にできるように努めていく必要があると考える。その参考としてこのポケット版マニュアルが多少でも役立つことを期待している。

E. 結論

ブロック拠点病院がない地域において、HIV 診療体制整備として、介護および福祉施設の充実を目的に、HIV 感染症に関する介護用マニュアルを作製した。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Otani,M., Shiino,T., Hachiya,A., Gatanaga,H., Watanabe,D., Takada,K.,et.al. Association of demographics, HCV co-infection, HIV-1 subtypes and genetic clustering with late HIV diagnosis: a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. J. International AIDS Society2023,26 :e26086.
- 2) Taniguchi Y, Suemori K, Tanaka K, Okamoto A, Murakami A, Miyamoto H, Takasuka Y, Yamashita M, Takenaka K : Long-term transition of antibody titers in healthcare workers following the first to fourth doses of mRNA COVID-19 vaccine: Comparison of two automated SARS-CoV-2 immunoassays. J Infect Chemother.29(5):534-538,2023.
- 3) 中村美保、岡崎雅史、西田拓洋、高橋武史、朝霧 正、宮崎詩織、武内あかり、高田清式、武内世生. HIV 陽性者のワクチン接種状況調査. 日本エイズ学会誌 25 : 99-105、2023.
- 4) 中村美保、前田英武、岡崎雅史、西田拓洋、朝霧 正、四國友里、北村優衣、高田清式、武内世生. 高知県内医療機関における HIV 陽性者受け入れ時の問題点と解決への取り組み. 日本エイズ学会誌 25 : 106-111、2023.

2. 学会発表

- 1) 菊地 正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、Lucky Runtwene、椎野禎一郎、高田清式、吉村和久、杉浦 互他. 2022 年の

国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS

患者における薬剤耐性 HIV 1 の動向. 日本エイズ学会、2023 年、京都.

2) 木原久文、中尾 綾、臼井麻子、西田拓洋、徳井恵美、海面 敬、赤松祐美、谷 英俊、池谷千恵、中村美保、川田通子、武内世生、佐藤 譲、今滝 修、尾崎修治、和田秀穂、千酌浩樹、川邊憲太郎、山之内純、高田清式. 中国四国地方における HIV 関連神経認知障害に関する研究・続報. 日本エイズ学会、2023 年、京都.

3) 中尾 綾、レイシー清美、若松 綾、末盛浩一郎、河邊憲太郎、山之内純、竹中克斗、高田清式. HIV 感染者の気分状態と睡眠に関する検討 第 2 報. 日本エイズ学会、2023 年、京都.

4) 西田拓洋、中尾 綾、臼井麻子、海面敬、徳井恵美、赤松祐美、谷 英俊、池谷知恵、中村美保、川田通子、武内世生、佐藤 穰、尾崎修治、今滝 修、和田秀穂、千酌浩樹、河邊憲太郎、山之内純、高田清式. HIV 診療における CoCoBattery の活用. 日本エイズ学会、2023 年、京都.

5) 加藤潤一、越智俊元、末盛浩一郎、乗松真大、小西達矢、名部彰悟、丸田雅樹、山之内純、高田清式、竹中克斗. ART 導入後に化学療法を併用し寛解維持している HIV 関連リンパ増殖性疾患. 日本エイズ学会、2023 年、京都.

H. 知的財産権の登録状況（予定を含む）

該当なし